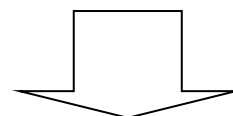


令和4年度授業改善推進プラン

教科 [英語] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
1学期初期より少人数での指導を行っている。小学校での外国語活動、外国語科を学んできた生徒であり、4技能のうち「聞くこと」「読むこと」「書くこと」には力のある生徒も多い。小学校4年間の学びから、入学時の成績の二極化も課題である。「話すこと」や発表活動等においては、自信のない生徒、苦手意識の強い生徒も多い。小学校での学びを復習に取り入れ、英語を恐れずに使う授業環境を整える必要がある。ALT、学力向上支援員とも連携し、「褒めて自信につなげる」指導を心がけている。	昨年度同様、少人数クラスで授業を実施している。提出課題には真面目に取り組む生徒が増え、授業の形態を理解し素早く活動に取り組めるようになってきた。ポイントとなる基本文は理解できるが、過去に学習した文との区別がつかなくなる生徒もいる。基本文の定着を図るための活動を繰り返し行い、既習文を使って身の回りのことを表現できるように指導する。クラスの中で能力差があるため、学力向上支援員と連携して個別支援を行う。	昨年度同様、成績の二極化が見られる。基礎の定着が図れていない生徒もいる。生徒の習熟度を考慮し、生徒同士の教え合いや助け合いができる少人数授業を工夫している。定期考査を実施すると、基本的な問題（文法、語彙、リスニング、比較的短い量の読解）には対応できるが、表現力（語順、構文知識）が不足しているため英作文が苦手な生徒が多い。また、おとなしい生徒が多く、発言する生徒に偏りが見られる。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 「言語」としての英語よりも、「学習」としての英語という捉え方をする生徒が多く、興味関心が薄い生徒がいる。英語を学ぶ目的が明確にならない生徒もいる。 間違いを恐れているために積極的な発言や発表活動等、英語の発話に自信がない生徒が多い。 単語や基礎的な文全体の意味は理解できているが、文法構造が理解できていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にアンケートをとり、洋楽を取り入れる。ALTとの英語圏の国にかかわる話題を出すなど、興味関心をひく授業ができるよう工夫する。英語を使えるようになることで、世界が広がる面白さを伝えるようにする。 英語はアウトプットをたくさんしていかないと身に付かない。間違えても大丈夫、恥ずかしくないという授業の空気を切にすることを指導する。また、褒めて伸ばすことを第一に考え、指導する。発音練習や音読練習は、個人、ペア、グループ等、いろいろな方法で何度も繰り返し練習をし、自信をもって発話できるようになるまで取り組ませる。 7割ほどの生徒が、文章全体の概要を理解できている。文法構造を説明するときは文法用語などはできるだけかみ砕いたわかりやすい表現で説明する。補助として解説と小問題のプリントを配布し、eライブラリなどを活用しながら定期的に問題を解くことで、理解の定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基本文の意味と文の構造は理解できているようである。しかし、基本文をどのような場面で使えばよいか、まだ曖昧な生徒が見られる。 全体的にリスニング、リーディングはある程度できるが、単語のスペリングや英文を作成する際の文法上のミスが見られる。 英語での「やり取り」の力は帯活動によって身に付いてきた。しかし発表に関しては声が小さく、聞き手を意識したパフォーマンスが身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本文を導入する際は、しっかりとした文脈・場面を与える。その後、帯活動等を利用して継続的に基本文を活用できるように授業を工夫する。 授業では発話を中心にした活動を行うが、家庭では復習する際を書いて覚える課題を与える。スペリングコンテスト、ノートチェック、ワークシートなどを活用して生徒が落ち着いて書くことに取り組めるようにする。ノート、ワークシートの提出は頻繁に行い、普段の学習状態を把握する。 ペアでリテリングすることから始めて、段階的に相手を意識して発表できるような活動を与える。スピーチを課題として与える場合は、評価規準を明確にし、生徒が無駄なく努力できるようにする。 ※パフォーマンステスト、定期考査等の評価活動の後には、生徒が自らの学習を振り返る機会を設ける。生徒自身が自分の学習をコントロールできるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的によく取り組んでいる生徒が多い。高い英語力をもつ生徒がいる一方で、英語を苦手としている生徒も存在する。そのような生徒は継続して家庭学習に取り組む習慣がない場合が多い。自立した学習者となるよう、指導しなければならない。 授業では様々なバリエーションでの個々による音読活動およびペアワークやグループワーク等を取り入れ発話量を増やした。それらの活動に関しては、生徒達は意欲的に取り組んでいる。 評価計画をしっかりと立て、それに基づいた日々の学習活動を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の英語によるパフォーマンスの向上につながる指導の充実を図るために、生徒に教科書を音読させるときは、それぞれの活動（Repeating, Shadowing, Read and Look up）に意味と、目標をもたせて取り組ませる。 ALTとのティームティーチングを活用し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 毎時間の指導のねらいをはっきりさせ、基本的な事項の定着を図る。 活動を多く取り入れ、生徒が能動的に学習できるよう計画する。 実生活に即した場面・身近な話題を授業に取り入れ、生徒の興味をひき、英語の有用性を意識させる。 ターゲットセンテンス（基本文法を含んだ英文）を繰り返し活用できるような評価活動を取り入れる。